



2017-2018年度
国際ロータリーのテーマ

ロータリー： 変化をもたらす

RI会長
イアン H. S. ライズリー

第2720地区ガバナー 永田 壮一
第2720地区ガバナーエレクト 高山 泰四郎
大分第3グループガバナー補佐 荒金 信治

第2720地区 大分第3グループ

別府東ロータリークラブ

例会日：毎週木曜日 12時30分
例会場：杉乃井ホテル
ホテルサンバリーアネックス
事務所：別府市西野口1番1号
〒874-0931 (青山通りビル3階)
TEL (0977) 23-9000
FAX (0977) 23-9019
E-mail: jigoku@beppuhigashi-rc.jp
http://www.beppuhigashi-rc.jp/

会長 長野 勝行 幹事 久保田高史

VOL. 39—No.29 2018年2月15日

第1857回例会

公共イメージ委員長 瑞木 一博



白鷺 由布院

“歴史と伝統を継承し、
活動的なクラブにしよう”

別府東RC 会長テーマ

一 平和と紛争予防／紛争解決月間 一

- 点 鐘 12時30分
- ロータリーソング 君が代・それでこそロータリー
- 唱 和 四つのテスト
言行はこれに照らしてから
1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか
- ビジター 佐藤正哲 (大分 1985)
- ゲスト
山田 舞さん
(2018ミス・ユニバース・ジャパン大分 大分代表)
梅田佳子さん (MUJ 大分実行委員／事務局長)

■ 出席報告 委員長 後藤 誠一

本 日	会員総数	42名	ゲスト	2名
	出席数	21名	ビジター	1名
	欠席数	12名	出席率	63.64%
前々回の出席率		54.84%	修正出席率	58.06%
		100% 通算		1578回

出席規定免除(a)：荒金

出席規定免除(b)：岩瀬、樽谷、杉本、幸、西、檀上、
梅野、箕作

名誉会員：西村

■ メイクアップ

事後 (第1855回例会)
羽田野 (大分)

■ 欠 席

安部、後藤、石田、笠木、工藤(晴)、森、西(貴)、
二宮、岡本、但馬、詫磨、梅津

■ 会長の時間 会長 長野 勝行

先日の近隣7RC寒中例会には、インフルエンザ発症のため出席できませんでした。

一力副会長、久保田幹事はじめ皆様にはご迷惑をおかけしました。

数年ぶりにインフルエンザB型の発症でしたが、1週間以上経った今も本調子ではありません。

皆様も十分お気を付け下さい。

さて、連日オリンピックで盛り上がっていますが、昨日は日本勢のメダルラッシュで、メダル総数は銀4、銅3となりました。

今後も男子フィギュア等の期待種目もありますので、金メダルも期待したいところです。

本日は、ここ数年、恒例になっています2018ミス・ユニバース・ジャパンの大分県代表の卓話になっております。

今年は、APU 在学中の山田 舞さんにお越し頂いていますので、ゆっくりお話しをお聞きしたいと思います。

■ 幹事報告

幹事 久保田高史

本日は、奉仕活動支援の為に積立ランチを実施します。会員皆様のご協力をお願い致します。

1. 「2018-2019年度地区研修・協議会」開催のお知らせ

日 時 平成30年4月8日(日)
9:00～登録開始
10:00～点鐘/10:25～ガバナー挨拶
11:20～基調講演/12:10～昼食
13:10～次年度部門長挨拶/14:10～部門別協議会/16:00～地区財政について/16:15～質疑応答～16:30点鐘

場 所 ホルトホール大分 大ホール

ホ ス ト 大分1985RC

登 録 料 1名につき 5,000円

出席義務者 ガバナー補佐、地区研修委員会、地区部門長、地区委員長、地区委員、クラブ会長、幹事、管理運営・公共イメージ・会員増強・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕・R財団・米山記念奨学 各委員長

*次年度各担当委員長のご出席をお願いします。個別にプログラムを配布します。

2. 例会変更のお知らせ

○別府中央RC：2月20日(火)の例会は『職場訪問例会』の為、同日12:30～別府市美術館に場所変更

○大分1985RC：2月26日(月)の例会は『夜間例会』の為、同日19:00～割烹にしおかに時間・場所変更

○別府中央RC：2月27日(火)の例会は、例会場の都合により、同日12:30～春香苑に場所変更

3. 本日、例会終了後13:40～「中長期計画(創立40周年)準備委員会」を開催します。中長期計画委員会委員の方は、例会場にお残り下さい。

4. 次週(2月22日)の例会予定

「但馬 友プロを囲んでのゴルフ教室例会」

【2018-2019年度地区チーム研修セミナー】

平成30年2月17日(土)

12:30～登録開始

セミナー 13:00～18:00

於ホルトホール大分3F

懇親会 18:30～20:30

於レンブラントホテル大分

※山下布美代次年度RLI委員のご出席をお願い致します。

*2月22日(木)を変更して、2月24日(土)に開催します。

ゴルフをされる方は9:00～於別府の森ゴルフ場。例会・懇親会は、18:30～ホテルサンバリーアネックス。

お間違えのないようにご注意ください。

5. 本日の回覧 ①「但馬 友プロを囲んでのゴルフ教室例会」出・欠席(2月24日(土)) ②3月1日例会 出・欠席 ③奉仕プロジェクト造園作業例会(1回目)(3月15日) ④第4回クラブ協議会 ⑤ロータリー手帳購入申し込み ⑥熊本菊南RC創立30周年記念誌 ⑦豊後高田、杵築 各RC週報

■ お 祝 い

会員誕生日 檀上 陽一会員(2月20日)

結婚記念日 西 貴之会員(2月17日)

*ご自宅に特選豊後牛肉をお届けします。

皆 勤 山下 唱徳会員(2月4日=2年)

中村 忠孝会員(2月9日=1年)

■ ニコボックス

○竹内孝夫会員 ミス・ユニバース・ジャパン大分代表 山田 舞さん、日本一目指して頑張ってください。当社もスポンサーなので、3口いたします。

卓話『ミス・ユニバースにチャレンジして』

2018ミス・ユニバース・ジャパン大分代表 山田 舞さん



2018ミス・ユニバース・ジャパン大分代表 山田 舞です。この場にお呼び頂き、本当にありがとうございます。こと最近、1ヶ月前までは想像のつかない日々が続いています。テレビ出演やイベントへご招待頂き、新しい世界に触れるきっかけを頂いています。

本日はそんな私のこれまでの経験や、ミス・ユニバース大分大会について、そして今後の将来の事について少しお話しさせて頂きたいと思います。

まず先日行われたミス・ユニバース・ジャパン大分大会についてです。ファイナリスト11名の中からダンス審査、水着でのウォーキング審査、最後にドレスでのスピーチを経てグランプリとなりました。取材やテレビでも必ずと言っていいほど聞かれる受賞した時の感想

ですが、正直ガッツポーズができるような舞い上がるものではありませんでした。

名前が呼ばれた瞬間「ああ、来たか。」「このまま前へ進んで…」というように淡々としていて、次のように動けばいいかを考えていました。

ここまで聞くと、なんて冷徹な人間なのだと思います。もしかかもしれませんが、しっかりと翌日感情が溢れ出し、壊れた蛇口のように涙が流れ、そしてガッツポーズが出ました。というのも大会の翌日になり、ようやく実感が湧き、今までの自分を振り返ることができたからです。大会当日は母も見に来てくれたのですが、翌日の仕事の為に最後までいる事ができませんでした。そんな母の喜んでくれているであろう顔が脳裏に浮かび、やっと思返しができたという思いや、ここまであまり口出しする事なく、たまに電話越しに励ましてくれる、そんな母に対して、とても深い感謝の念が込み上げて来ました。

ここで少し、大会までの2ヶ月間行われたビューティーキャンプについてお話ししようと思います。大分のビューティーキャンプは他の県に比べてとても

しっかりと行われていて2ヶ月間ほぼ毎日ありました。

ミス・ユニバースのコンセプトは「外見だけではなく内面から輝くオピニオンリーダーとなる女性」なので、ウォーキング、ダンス、スピーチ、マナー、そしてそれだけではなく、メンタルトレーニングや栄養学、そして大分の歴史といった知識教養にまで及ぶ講義が行われました。毎回の講義において初めて知ることが多く、ビューティーキャンプが始まった当初は「すごい!」「こんな事を今日知った、あんな事も知れた!」というように毎日新しい事に触れられる喜びに溢れていました。

しかしビューティーキャンプも中盤に差し掛かるところで、毎日感じていた喜びが次第に今までの無知であった事に対する自分を蔑む思いや、半分に差し掛かったにもかかわらず未だにできていない事に対する苛立ちへと変わっていききました。そしてそれと同時期に周りとの自分の違いや、自分のいいところ悪いところはどこなのかを探すようになりました。そして追い討ちをかけるように、友人が大学生として学生団体や様々な学びを深めている中で、私は取り残されていくような不安に襲われました。もうやめてしまおう、私がいるべきところはこのではないと感じるようになり、とりあえず明日だけビューティーキャンプに参加しよう、とりあえず明日だけ、という日々を繰り返します。

またSNSも情報発信力を見るという事で審査の対象になっていたのも、そこで様々な事を発言しているうちに、たくさんの友人やその投稿を読んで下さっている方が、応援して下さいの中で「辞退します」と自分の勝手な理由で諦めてしまう事ができない状況にもありました。この状況が本番2日ほど前まで続きます。日にちだけが気持ちと折り合いをなさないまま過ぎていき、そして周りの方からの応援が増していきます。もうここまですると、とりあえず学園祭のような気分で楽しもう。そんな半ば諦めのような気持ちに移行していききました。

そしてリハーサル前日の夜に姉と話します。そこで、人を魅せるにはどうしたらいいかを尋ねます。何故ならば私にとっての最大の課題は、他の誰にもない自分だけの輝きや個性、訴えたい事をどのようにウォーキングやダンスで相手の心にまで届けるかという事でした。そして自分だけがもつ魅力を自分自身で認識できていませんでした。講師の方にも、このウォーキングを通して何を伝えたいかが伝わってこないと毎回指摘され、その度に自分の感情やアイデンティティーまでも深く掘って考えてみるも結局答えが出ないままで終わってしまっていたからです。これに対する姉の答えは、人それぞれスタイルが違い、全ての人にイエスと言ってもらえるなんていうのは甚だ無理な話である。自分に正直に振る舞い、それにイエスと言ってくれる人がいるんだったら人生それでいいと思う。皆と一緒にいるのは、外れはないけれどそれと同時に、光るものや抜けるものはない。個性というものが良くも悪くも印象に残るのではないかと、言われました。ここではたとえ気づきました。これまでの自分は、ユニバースとはこういうものだ! こうなければならぬ! や、講師の方々にご指導いただきそのままに受け入れその通りに振舞っていました。しかしこの姉からの言葉で、自分、山田舞はどこにいるのか。オピニオンリーダーとして自分の軸を持っていなければならなかったはずが、いつのまにか新しい情報や知識に翻弄され、流され、自分がもともと持っていた価値観に自信が持たなくなり、

自分を信じる事ができなくなっていたのではと気づきました。このままではたくさんの人の中の1人になってしまい、そんなのであれば私が例えグランプリになり大分代表になったとしても何も価値はないのではないかと思ひ出します。他の人と同じであれば私、山田舞がグランプリになる必要はなかったのです。150時間もの講義を受け、そのほかにも様々なご指摘を頂き、それを自分の場合だとどうするかを考えていなかったのです。それではただ、その意見を下さった人たちの分身で終わってしまいます。そこで今までの自分が好きだったもの、嫌いだったものを全て思い出す作業を行いました。幼いころ、どんなものに感動し、どんなものに惹かれていたかを考えました。私は強いものやキリッとしているものよりも、柔らかく流動的で繊細なものが好きだったのです。なので、強いウォーキングをしようとしてもなかなか上手くいかず、強いウォーキングができるファイナリストを見ては自信を無くしていました。人間は基本的にネガティブです。他人のいいところを見ては自分にはないと思ひ、元来持っていた自分のいいところまでもが見えなくなってしまっているのではと気づきます。ここから大きく風向きが変わって行ったのを感じました。できないものはできない。そんな事よりも自分が得意なものを生かして、自分の個性とはここです! というように全面的にできない事、苦手なものを隠すのではなくて、全て表に出していくスタイルに移行して行きました。もしそれで受け入れられなかったら、私の居場所はここではなかったのだという結果になるだけです。そしてこの心構えから、こうしなければならぬ、というやみくもに、がんじがらめにされるのではなく、自由に大きく表現できるようになったのです。結果的に取り繕っているものがないから心配や不安が消え、ただただ自分を信じるのみ、自分の可能性にけるのみ、という自分史上初めての思考回路ができました。

そしてこのまま本番の日を迎えます。朝からとても楽しく、まるで夢の中のような感じです。そうです。今までも人前に立ち今までの成果を全て発揮しなければならぬ舞台に立つことは何度もありましたが、今回ばかりは違いました。とてもワクワクして、どうにもいてもたってもいられません。母と朝に神社にお参りに行きました。そこでは今日の大会の成功を祈るよりも、グランプリになれるようにでもなく、今の自分の価値観を形成する事となった今までの全ての出来事へのお礼と、これまで頑張ってきた事への感謝の気持ちが自然と溢れ出てきました。そして会場入りしリハーサルの時、緊張のあまり泣いてしまうファイナリストや、笑顔が硬くなってしまっている人がいる中で、私は舞台袖で踊り、控え室でもずっと歌って踊っていました。本番が始まってからも何か特別に緊張するでもなく、ただただ心の底から楽しんでる自分に少し驚くほど気軽だったのです。

最後のスピーチを終え、結果発表を迎えます。当日の会場票の一番多い人が頂ける特別賞、大分テレビのOAB賞、ローソン賞、そしてセカンドグランプリ2名、グランプリという順番に発表されます。エンドロールが鳴り響き、スポットライトがファイナリストを順に照らし回ります。「特別賞、エントリーナンバー12番、山田舞」。想像もしていませんでした。今だから言える話、私は母を含め3人しか会場には呼んでいませんでした。なので、問答無用20枚以上チケットを販売したファイナリストがいる中で、まさか私が会場票で1番

になるなどあり得ない話なのです。そしてついにウィナーの発表です。ここで私はどこか確信していました。それは本番の舞台が始まる時、一番はじめのダンス審査、暗転から舞台が明るくなり前を向いた瞬間に、今誰よりも一番輝いている。他人との比較ではなく山田舞という人物が今、最高の笑顔と最高の心とともに舞台上に立っているという感覚があり、もう1人の自分が今日の舞台の成功を確信していました。なので「グランプリ、エントリーナンバー12、山田舞」と呼ばれた時にはとても冷静だったのです。そしてメディア向けのインタビューなど、今までの自分を取り巻く世界が変わっていく渦に飲まれて行くのです。

翌日、鏡を見たとき自分を自分で見て涙が溢れました。変ですよ。自分のことを自分で見て泣くなんてとても考えられませんが、走りきった2ヶ月間のビューティーキャンプ、もうやめてしまおうと数え切れないほど思った日にも、最低限の筋力トレーニングをして、しっかり3食の食事の管理を自分で行い、積み上げてきた自分に対してようやく自分で「よく頑張った」と褒める事ができました。ここで振り返ると、姉が私にかけてくれた「自分は自分でいい。誰に寄せるでもなく、ありのままの自分でいればいい」という言葉とともに、気づかないところで今まで積み重ねてきた小さな頑張りたちが、知らないところで自信となり勇気となり、本番の舞台で少しだけ他の人よりそれが輝いて見えたのかもしれないと感じました。正直2ヶ月間、1日たりとも1秒たりとも後悔をするような時間を過ごした事はないと言い切れる事ができます。

そして私の価値観を形成してくれた家族、そして私を取り囲んでくれた全ての人々や環境や経験に対して感謝の気持ちが湧いたのです。小さな小さな選択を繰り返し1つでも違ったら今の私はいなかったのかもしれないと思うと、大袈裟ですけど、どんな失敗や成功も全ての出来事が愛おしく思えました。

ここで少し今までの私についてお話します。京都で幼少期を過ごし、教科書をめくれば出てくるような歴史的な町だったので、毎日のように近くをお散歩していました。姉に憧れて、クラシックバレエや水泳、そろばん、お習字にピアノ、お歌など、それは様々な習い事をしました。でも元々飽き性な為になかなか長く続くお稽古はありませんでした。しかしその中でもスキーは別格でした。父の影響もあり、冬になると毎週のように車で3時間、4時間をかけて行きました。その日だけは朝4時、5時に自然と目が覚めて極寒の中、朝から営業の最後まで滑り倒したのです。そして小学生高学年になり、オリンピック競技であるアルペンスキーというものを見つけ、強烈に惹かれました。自分でクラブチームを探しだし、交渉をしました。そこは北海道にあり、全国からオリンピックを目指すジュニアがたくさん集まってくるチームです。私は小学校を転校し、地元の家族の方にホームステイさせて頂き、スキー清けの日々を送りました。親元を離れ行ったこともない地へ行き、温暖な大阪とは全く気候の違う場所で、それは毎日が戦争のようなものでした。しかしやはり究極の勝負の世界。いくら努力をしようがいくら必死にしがみついても練習しようができない事があると、ここで初めて知ります。アルペンスキーはコンマ何秒を争います。体が大きくガタイのいい体つきの人ができるよりも有利になります。しかし私はそのようなアスリート向きの体にはなれず、諦めざるを得なかったのです。

しかし、この経験は私の人生において、知らない世

界に右も左もわからないままだけでも自分が惹かれるものに対しては貪欲に果敢に挑戦して行くと、新しい世界が必ずひらけてくるという大きな成功体験を得る事ができました。そして中学生になり、走高跳をし、高校生では大阪桐蔭に進学しました。そしてチアリーダー部のキャプテンを務め、甲子園や様々なクラブの応援に行きました。どのスポーツも全国レベルで優勝するような強豪校であり、またとても厳しい進学校だった為に、一流の努力をする友人にたくさん恵まれ、とても充実をした日々を送る事ができました。

そして将来のことを進学とともに考え始めた時に、真っ先に浮かんだのが環境保護について取り組みたい、という事でした。幼い頃から自然に触れることが多く、何か悩み事や不安なことがある時には、家の周りに偶然にも里山のような自然豊かな場所がたくさんあった為、1人でお散歩に行き、何をしてもなくじっと身をそこに置くだけで、ずっと心が軽くなり、今、目の前にある全ての事にありがたう、と言えるようになることを実感していました。時には自然と涙が溢れ出てくる時もあったのです。こんな心を穏やかにする自然が今どんどん失われていっているのを家の近くの高速度道路の開通や他様々などころでも実感した為、将来はそんな掛け替えのない自然をどうか守って行きたいと考えました。これまでも世界レベルで様々な取り組みが行われていますが、なかなか一般市民に対しては期待するレベルまで危機感や知識が周知されていないのではと感じています。そして今後は一人ひとりが責任を持って環境に対してアプローチしていかなければ間に合わない事も事実です。だからこそ私は、今までは違う方法で取り組もうと考えています。

私を通じて知って頂く。それは、環境や社会問題に対してそこまで興味がなかった人たちに知ってもらえる大きなチャンスだと考えています。そんな願いも込めてミス・ユニバースに応募したわけでもありません。しかし、どのように活動して行くか、どのようにこのミスユニバースを活かして行くかという具体的な方策は固まっていません。なので、これから大学での学びはもちろんの事、さらに学びを深め、将来につなげて行きたいと考えています。

そして最後になりましたが、今後行われる日本大会に向けてです。私らしく。山田舞とはこんな人物でこんな意思を持っていますという事をしっかりと伝える、ということが目標です。私は1年前に立命館アジア太平洋大学に進学するために初めて大分県にきました。たった1年しか経っていませんが、すでに大分県の虜になりました。もともと県外者だからこその場所と比較して見えてくるいいところをもっともっと日本全国の人に知って頂けるような活動も同時に行っていければと思っています。



ミス・ユニバース大分代表 山田さんと長野会長